

[025]健康科学表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4783995>

出版情報：健康科学. 25, 2003-03-25. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

健康科学

第25卷



九州大学 健康科学センター

2003年

健康科学

九州大学健康科学センターは九州大学保健体育学教室と同保健管理センターを母体として昭和53年4月1日から発足した。本誌は九州大学体育学研究（第1巻第1号～第5巻第5号：通巻第25号）および九州大学保健管理センター紀要（第1巻～第4巻）を引き継ぐものである。

上の題字は「健康科学」第1巻から第19巻まで使用され、初代の健康科学センター長 武谷健二元九州大学長（元医学部教授）によるものである。



人間が姿勢よく立って歩くさまを「健」という。歩くふたりの間に横たわる二重らせんは、“Read Nature Not Books”と刻まれている。DNAの生命の糸は、普遍の記号でつづられたヒトと生物たちの物語、温故の手がかり、知新の源泉である。

砂漠の朝、太陽が昇る。巨大な日輪が出始めてから地平を離れるまでの時間に、人が歩いた平均距離を、古代バビロニアンはスタディオンと定めた。この単位で古代人たちは地理を測り旅程を考えた。地球の全周は25万スタディアと記されている。人間そのものが社会活動の基準にすえられた時代があった。世紀で刻むにはあまりにも巨大な進化の流れ、そのなかをヒトは歩きつづけてきた。

「歩けないヒト」のためには医学が生まれた。現代文明における「歩かなくなったヒト」を反省し未来を拓くため、「歩くヒト」の健康科学は、物質ではなく生命に、神よりは人間に、具体具象の基盤、新しいスタディオンを探るものである。夜の闇をたちきる黎明、新たなスタディオンの刻まれるときである。